

## アリさんの好きな食べ物な～に？ 出雲市立四絡幼稚園（島根県出雲市）

【4歳児】

4歳児は、3歳からの進級児と入園児との混合クラスである。進級児は、昨年度の経験から赤土山や花壇で、アリの巣やダンゴ虫のいる場を知っており、友達と一緒に飼育ケースを持って探索する。一方入園児は、新しい環境への新鮮さに目を見張りながら、少しずつ友達の遊びをまねて遊ぶようになる。友達の発見をヒントに自らも試みたり、一緒に試してみようとするなど＜友達と共に＞が行動への意欲となっていく。発見したこと、不思議に思ったこと、困ったことなど伝える場を工夫し、新たな気付きを得、探究心を抱くことを願っている。

月日	幼児の活動（T=保育者）	保育者の読み取り（ ）と援助（*）
6/19 良い匂いの花をアリさんにあげたよ	<p>S児 甘い匂いの花を見つける。「ねえねえ、良い匂いの花を見つけたよ」と、保育者や周囲の友達に知らせて歩く。</p> <p>T「本当だ。甘い匂いがするね」「先生、知らなかったよ」</p> <p>傍で聞いていたR児は「僕も同じ花見つけたよ」と言い、R児、S児は見付けた花をしばらく持ち歩く。</p> <p><u>R児、S児「アリさんが好きかもしれない」「ここにアリさんのうちがあるよ」と一本橋下のアリの巣穴入り口に置く。</u></p> <p>じっと見ているが、アリは出てこない。</p> <p>R児、S児 巣穴を探して歩く。R児は松の根元の穴を見て「この中全部アリさんのお家だよ」と言う。R児、S児「アリさん、出てこないかなあ」「この入り口に置いたら出てくるかも知れんよ」「なかなか出ないねえ」「砂糖置いたら？」「甘いもの好きだけん、とりに出るかも知れんよ」「そしたらこの花にも気が付くかもしれないね」R児たちの声に「何してるの？」と関心を寄せた子たちが集まり、一緒に砂糖を置いて様子を見る。</p>	<p>*園庭と一緒に確かめ、発見した喜びを共に味わう。</p> <p>「僕が見付けた良い匂いの花」と大事に持ち歩いている。</p> <p>年少時に絵本を見た経験を通して、知識として「アリは甘い物が好き」ということを知っていて試そうとしている。</p> <p>穴の空いている所には、アリがいることを知っている。年少時の経験を確認し合っている。</p> <p>*子どもたちの試したい思いを受け止め、砂糖を用意する。</p>
6/22	<p>B児が手に砂糖を付けてアリを乗せ、虫眼鏡で様子を見る。「あっ！アリが砂糖食べてるよ」と周囲の友達に知らせる。「見せて！見せて！」と興味をもった子が集まり、順番に虫眼鏡で覗く。</p> <p>Y児、T児は、先日と同じ甘い匂いの花を花壇の巣穴に置いてみる。「アリさん来るかな？触っちゃだめだよ」と言う。Y児たちの会話を聞いた他の子が一緒にじっと様子を見る。アリが花に登ってくる。「あっ！アリさんが花にきたよ」</p> <p>「花壇のイチゴがかじられている」「アリさんかもしれない」</p>	<p>甘い物が好きということを心に留め、繰り返し試す姿が見られる。</p> <p>松の根元の巣穴と共に、年少時からアリがたくさんいることを知っている花壇にも目を向ける。</p>
6/27	<p>T「どうかなあ？ アリさんかな？先生は好きだけどなあ」</p> <p>B児「調べてみようよ」</p> <p>イチゴ、ブドウ、ピワ、蒸かしジャガイモ、ミカンを子どもと一緒に花壇に並べてみる。T児「僕はブドウが好きだけど、アリさんはどうか？」M児「もしかしたらジャガイモ食べるかもしれないよ」（ピワにたくさんのアリが集まる。イチゴ、ジャガイモには少ない）</p> <p>M児「ジャガイモにはこないね」「ジャガイモ嫌いかなあ」</p> <p>S児「ミカンには、来ているよ」</p> <p>撮影した手作りの映像を見て話し合う。</p> <p>「ピワにたくさんアリさん来たよね」</p> <p>「ブドウにも来てるよ」</p> <p>「ジャガイモとイチゴは少ない」</p> <p>T「先生はイチゴにたくさん来ると思ったけど、少なかったね」</p> <p>A児「イチゴを切ったら来るんじゃない？」「カステラは？」「スイカは？」「もしかしたらカボチャも食べるかもしれない」</p> <p>E児「給食のメロン分けてあげたら？」</p> <p>虫への関心が薄かったM児が「<u>アリさんにあげる物持って来たよ！</u>」と鯉節、キュウリ、パンを家から持って来る。</p>	<p>*アリは甘い物が好きだと思っているが本当に好きなのか、試してみようという意欲の高まりを感じ、最近食べた身近な食べ物を並べてみる。自分がおいしく食べたものをアリが選んでとりに出てくるか興味津々で見つめた。</p> <p>「先生は好きだけど」という言葉かけが、子どもたちがアリを自分と重ね合わせて考える姿につながった。</p> <p>*アリの集まる様子をデジタルカメラで撮影する。</p> <p>*映像を通して、はっきりとその瞬間を確認し合うことが出来、子どもたちの思いや感じたことが引き出せ、共通理解を図れると思い、見ながら話し合いをする。</p> <p>映像を見て話し合ったことで、その時のことを思い出して、より印象を強めたり、見ていなかったことにも気付き、イメージを広げたりすることができた。</p>
7/3 アリさんの好きな食べ物なあに？	  	

<考察>

- ・映像を使った話し合いでは統一した考えを求めるのではなく、一人一人の思いを出せる場として、考えたこと、思ったことを、映像を見ながら素直に口にしている姿を大切にしたい。そのため、一緒に考えようとしたり、一緒に確かめてみようとしたりする姿が見られた。映像によって体験を想起しやすく、共通の認識をもって気付いたことを出し合う場となり、クラスの気持ちの高まりへとつながっていった。
- ・自分の食べる物と結び付けて、「アリにとってはどう?」と比べたことが、子どもたちにとって身近な存在となった。

**みどころ**

子どもたちがアリとかかわる姿は、毎年のように日常的に見られます。それは、子どもたちの心を動かし、興味をそそるからに違いないのですが、保育者はどのように寄り添っているのでしょうか。「甘い匂いがする花をアリが好きかも知れない」「砂糖を手に乗せて、アリを虫眼鏡で見よう」「イチゴをかじったのはアリかな?」「アリは何が好きなのかな?」保育者が寄り添うことで、子どもたちの追求が展開しています。このように追及する意欲的な思いがあるからこそ、映像を見て確かめたり、情報を共有したりすることが、効果的です。細やかに子どもに寄り添うことにより、子どもたちの「科学する心を育てる」保育者の工夫が、さらに生きています。